

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490300080		
法人名	NPO法人 日本ライフ協会		
事業所名	グループホーム陽だまり長屋鈴鹿		
所在地	三重県鈴鹿市秋永町2092		
自己評価作成日	平成25年1月24日	評価結果市町提出日	平成25年5月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kan=true&JivovsyoCd=2490300080-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 2 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針の「誠実で優しい介護を、利用者様には満足を、ご家族には安心を」とグループホーム理念「寄り添うケア、笑顔の絶えないわが家」を職員一同で共有し入所者様が自分の家に居るような気持ちで生活していただけるように手助けしていきたいと思っています。独歩の方が皆無となり外出は難しくなってきましたが自然に囲まれた恵まれた環境があり散歩に出かけたり周りの畑の野菜を頂いたり地域に受け入れてもらっています。毎月のリクエストメニュー、季節の行事、誕生会などにも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

有料老人ホームとデイサービスセンターを併設した、高台の農地に囲まれ梅の花の香が漂う日本古風の建物である。散歩時に野菜や梅の花等を頂いたりしており、日頃から地域の方々との交流がされている様子がわかる。職員は優しい心で利用者の気持ちになって、常に自分の家と変わらない生活が送れる様にと支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「寄り添うケア、笑顔の絶えないわが家」を合言葉に、取組んでいます。	職員は、職員会議で毎月理念を伝え、常に目の付く所に掲示して共有している。また、今までの様に自宅と同じ生活が送れる様、本人の要望に添う手厚い言葉掛けを心掛け、利用者・家族に接し信頼を得る支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域や小学校の行事への招待を頂いたり、施設開催の「感謝祭」に、地域の皆様にも参加していただいています。	より深い地域との交流を高める為、昨年より感謝祭を開催し多くの住民に参加を頂いている。また、河川・神社の草刈に参加したり、散歩時には野菜、花等を頂いている。介護実習生を受け入れ、小学校の行事への参加や数多くのボランティアの方々も来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来訪していただいた皆様に対して、認知症の方への取り組み等をお話し、理解を深めていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの生活状況の報告を行うと共に、皆様の意見を伺いながら、より安心で健康的な生活環境の提供に活かしています。	年6回開催しており、包括支援センター職員・家族・民生委員、特に自治会総代を始め地域の役職の方々が多数参加している。状況報告・催しものの案内・ヒヤリハット等も報告され、意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回以上は、担当課に出向き、ホームの状況報告を行いと共に、指導を仰いでいます。	月初には事業所の報告を兼ねて運営推進会議の報告・困りごと・相談等に訪問し、情報交換をしている。利用者の紹介もあり、介護相談員も来訪しているので意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームでの勉強会や外部研修等で、各々が問題定義や提案を持ち寄り、基本(マニュアル)を基に改善案などを検討し、現場に反映するよう取組んでいます。	職員会議で、拘束をしないケアを実現する為、事例・ヒヤリハットを用いて検討している。現在は家族の同意を得てベツ柵、車椅子のベルトを使用している(全て転倒防止の為)。玄関は見守りで施錠はしていない。	止むを得ず拘束する場合は拘束期間設定等を家族にも充分説明し、身体拘束0を目指す更なる研修と、職員のスキルアップでリスクに惑わされないケアの体制作りを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝夕の申し合せ等の機会を利用し、職員相互の情報交換を行い、虐待など不適切行為の発生を防いでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームでの勉強会や外部研修等への参加を推奨すると共に、解決すべき問題が発生した場合には事業主体の支援を得て問題解決に当たる体制を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	まず、ご家族には見学をして頂き、その後入居希望となった後、別途入居に関する詳細の事前説明を実施し、ご理解を得た上で、入居契約の締結を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱によるご家族の要望・意見を承り、面会時には、職員より利用者の生活状況を伝達し、ご家族の要望なども聴きながら、コミュニケーションを図っています。	意見箱を設置しているが投書が無く、面会時に利用者の状況報告を兼ねて意見を聞くようにしている。云い難い事は居室で相談している。介護相談員からも情報交換し、ホーム通信のお知らせの中でも意見交換の場を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見を反映するために「提案箱」を設置し、職員会議での議題に取り上げ、ホーム全体で意見の反映を図っています。	提案箱を設置し、毎月職員会議10日前に全職員が投書している。直接云い難い事は場を設けて対応している。また、人事考課を兼ねてその都度意見を把握している。最近では立位の取れない利用者に転倒防止の為、車椅子対応体重計の提案があり検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	積極的な有給取得の推進や、新たに人事考課制度を導入し、勤務実績や、自己研鑽への取り組み等、多角的な評価を行い賃金への反映を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修・講習に、積極的に参加を促進すると共に、施設からの派遣も行い、技術・知識の向上と、上位資格取得を推奨しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新人研修への参加を行なっているが、同業者との交流機会が少ないので、相互訪問の実施を目指します。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人との面談を行い、生活実態や家庭環境などの背景への理解を深め、ホーム職員との信頼関係を築くよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に先立つ詳細説明などの機会を利用し、ご家族の要望や不安などを把握し、ご家族との信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の要望や状態の他に、ご家族の意向等を加味し、ホームからの提案を行など、タイムリーで柔軟なサービスの提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かした、軽度な作業に取り組んでいただきながら、協力し合える生活環境創りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への定期的な報告や、行事への参加を促し、ホーム運営に一体感を持っていただける関係創りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	継続した多様なボランティアの訪問を受けたり、ご家族の協力をにより、外出していただく機会を持っていただく事で、外部との関係を保っていただく様に努めています。	知人・遠方の親戚の方が来訪している。また、馴染みの店へ好きな物を食べに行ったり、法事に行ったり、家族に連絡して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的な声掛けを行い、フロアへ誘う事で他者との交流の時間を保ち、孤立せず人間関係を保てるような雰囲気創りに努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)の有無に関らず、相談などを通じて支援をさせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の所作・言動を観察し得た感想を、職員間で共有検討し、本人の思いへの理解を深めるよう努めています。	日常生活での利用者同士の会話の中、また、職員との会話で聞き取り、あるいは家族等の面会時に希望・意向を把握している。把握した意見・意向などは、介護日報・介護記録に記入し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーの情報を基としながら、ご家族からも情報提供を受け、最新の生活状況の把握につとめています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が観察した状態や感想を、申し送りや日常の情報交換により、職員全員が状態の把握を出来るよう勤めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が、日常の関りで気づいたことや、本人やご家族の意見を組み入れ、介護計画を作成し実行する中で、モニタリングを行い、項目毎に現実に即した期間や内容の検討を行いながら評価をしています。	計画は3ヶ月間の目標を立案して、モニタリングを毎月ケア会議で各担当者で行ない、日々の状況を確認した後、職員会議で意見交換し評価をして、見直しを行っている。作られた計画を家族と話し合い、意見・同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに、日常の生活状況等を、詳細に記録した情報を、現場や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存に固執する事なく、本人やご家族の状況にマッチしたタイムリーなサービスの提供を目指しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板や、運営推進会議等を利用して委員である自治会役員の皆さんからの情報提供を受け、地域資源把握すると共に、ホームからも災害時の施設利用なども模索しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回かかりつけ医の往診を受けながら、健康管理を行い、状態によってはご家族と相談しながら必要な受診を行っています。	入居時に家族に同意を得て、協力医で受診している。週1回往診があり、専門医への受診は家族に依頼している。緊急時も隣のデイサービスの看護師に連絡し主治医の指示を仰いである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在の為、隣接の「有料老人ホーム」「デイサービス」の看護師からの支援が得られるような体制となっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院を訪問し、病院関係者と情報交換を行うことにより、スムーズな入退院が行えるような関係と環境づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、ご家族と終末期のあり方や取り組みについて意見交換を行い、共通の方針を築き、看取りのマニュアルの添って支援を行っています。	家族の希望があれば主治医指示の下、終末期の指針で家族に説明している。看護師も4月から配置予定である。	現段階で出来る事、出来ない事を見極め全職員で看取り介護に関する話し合いや勉強会等を実施して職員、家族が共有出来る看取りの方針を作り明確にされる事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルや緊急連絡網に添って、対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な火災訓練実施しているが、地域との連携は不十分な状況です。	火災を想定して通報装置の使用方法、避難訓練を年1回事業所独自で実施している。スプリンクラーは昨年取り付けした。	職員の防災意識を高める為、平日頃から細やかな訓練の実施と地域自治会や消防署を交えた訓練の実施を期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で情報共有を行いながら、人格やプライバシーの尊重を心がける様に取り組んでいます。	トイレ、居室は特にプライバシーに関わることからドアの開閉に配慮している。利用者には必ず、さん付けで声掛けしており、言葉使いも気をつけ職員にその場で注意、指導もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者からの様々なサインに留意し、傾聴の姿勢を以て接しながら、利用者の自己決定を促すように取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的な日々にならない様、個々の要望に添った変化のある生活の提供を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や着衣の選択は、出来るだけ本人の主導で行いながら支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けにいたるまで、利用者の残存機能を活用して、職員と一緒に取り組みながら、職員も同じテーブルにつき食事の楽しみを得られるように努めています。	メニュー、調理は朝食以外、委託業者より作られているが、身体状況に応じ個々に食べやすいよう調理されている。また、毎月リクエストメニューがあり(行事食を含めて)好物を聞き職員が調理している。茶碗、湯のみ、箸、汁椀等は自宅より持ち込み食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分の摂取量を把握し、状態に応じた方法及び量を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と、毎食後の口腔ケアを励行し、磨き残しのないよう、介助など支援をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を作成し、個々の排泄パターン尿意を把握し、トイレで排泄出来るよう支援している。	排泄チェック表を使用しトイレに誘導している。また、個々利用者の身体状況、状態を見ながら昼間リハビリパンツ、布オムツ、夜間紙オムツを使い分け自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や軽い運動で自然な排泄を促していく。解消できない場合医師と相談の上服薬で補っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯についてはなるべく入居者の希望に沿うような支援を行なっている。	ひとり一人お湯を入れ替えいつも新鮮な湯になっており、季節湯(菖蒲、柚子、生姜)もある。入浴を嫌われる方にも時間を掛けて声掛けし入浴を楽しんでいただけるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースに合わせた生活をして頂く、室内の温度調節、週1回のシーツ交換、毎日パジャマの洗濯など快適に過ごしていただく		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに、処方箋を入れ皆が把握できる様にしている。急変時には随時有料、ディの看護師に相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たたみ、お尻拭き用布のカット等入所者の出来る事を見つけ手伝って頂けるよう支援、レクも一緒に同じ事は難しくなってきたので個々に応じた内容でやって頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩等は行なっているが1人ひとりの外出は行っていないが今後は実施出来るよう取り組んでいきたい。	事業所の周りを散歩し花の咲く頃には桜、梅の花を見に行っている。また、隣の有料老人ホームのボランティアの催しものに出掛けたり、家族と受診帰りに食事に行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つ事の大切さは理解しており希望を把握することから始めたい。現在自分で管理されている方もおり支援を広げていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方もおられ、希望時には何時でも電話をかけることが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族や地域の方から頂いた物を飾ったりナツメロをかける等穏やかな気持ちで生活いただけるよう努めている、共有空間には自然の採光をふんだんに取り入れ自然の明るさや暖かさを感じてもらえるように配慮している。	室内に貼り絵で作った神社があり利用者が願い事を書いた絵馬が飾ってある。通路にもエアコンが設置してあり環境が整っている。台所、食堂、居室が一点に見回せる作りになっており開放感がある。また、窓からはすがすがしい朝日が昇ってくる。食堂には懐メロが流れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペース、テレビ前のソファースペース、リビングなど状況に応じて利用できる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前ご自宅で使用されていた馴染みの家具や調度品、また家族写真などを置いて頂き居心地の良い空間を作るよう支援している。	ベッドは身体状況に応じて2種類用意されている。家族の写真等好き好きの物が持ち込まれ、中には仏壇を持ち込まれ毎日礼拝している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやトイレの場所が分かるよう表示、目印をしたり自室が分かるよう目印になるものを置いたりしている。手すりを設けることで安全に生活を送れるよう支援に努める。		